

小学校4年生～6年生の部

* 作品は原文のまま掲載しています。

宮城県知事賞

私は運転手

亘理町立荒浜小学校 四年 武蔵美羽

みなさん交通安全ルール守っていますか？」交通安全週間の時にパトロールカーが、交通ルール守るあなたが守られる」とアナウンスして、じゅん回しているのを聞いた事があります。私は、そうだよ。本当に・・・」と思います。

私は四歳の時に自転車を運転中に転倒してケガをしました。ほじよりんつきの自転車に乗れた事がとてもうれしくて、お母さん自転車で散歩に行こう！」と言ってお兄ちゃんと一緒に歩くことにしました。

お母さんはその時、乗れるようになったばかりだから、スピード出しすぎてダメだよ。ほら、ちゃんと前を見て。」と声をかけてくれていたのを今でもおぼえています。だけど私は、ワクワクドキドキがおさえられず、ペダルをおもいつきこぎました。顔に当たる風がとても気持ちよくてグングンこぎました。その時、あれお母さんついてきてるか？」と不安になり、お母さん？」とふりかえりました。その時、ガシャン！という音と同時に、お母さんがいたのと、何かが流れてるのを感じました。ヘルメットはかぶっていましたがヘルメットのベルトがゆるかったのでヘルメットがずれてしまい、自転車ごと道路のところに落ちたのでお母さんおどろきました。お母さんからたくさんのお話を聞きました。お母さんは、あわててハンカチをお母さんに当てておさえつけてくれました。その後、私は病院に行きお母さんお話を聞きました。今でも顔をあらう時あの時のことを思い出します。キズがなおっても心のキズはいつまでものこっています。あの時スピードを出さなければ、あの時ちゃんと前を見て運転していれば、あの時ヘルメットのベルトをきちんとしていれば・・・。」

お母さんが教えてくれた言葉が頭にうかびました。後か先に立たず「何度後かいても私のキズはなおりません。

ヘルメットを着用が努力がむいにならと、交通安全教室で知りました。けど、自転車に乗っている人がヘルメットをかぶっていないのをたまに見かけます。みなさんオシャレと自分の体の安全どっちが大切ですか？」自転車も車という字が入っているので車と同じようにルールを守らないとダメだと思います。みんな一人一人が交通安全ルールを守ろうと思えば交通事故は少しずつ減っていくと思います。

私も自転車を運転する運転手です。これからも安全運転がんばりたいと思います。

宮城県警察本部長賞

安全と便利の間で

塩竈市立第三小学校 六年 山崎想音

私の祖父は一人暮らしをしています。毎日三食自分で食事を作り、掃除や洗濯もきちんとしています。趣味は温泉に行くことで、時々お気に入りの宿に行きつくり過ごすことを楽しんでいます。そんな祖父は買物や病院、大好きな温泉にも、自分で車を運転してでかけています。

今、高齢者の運転での事故が増えていることをニュースでよく耳にします。夏休み中に祖父の誕生日が来て、82歳になったと聞いて私はちょっと心配になり、車の運転は大丈夫なのか聞きました。すると祖父は、先日免許の更新をした時のことを話してくれました。

75歳以上の人は、運転免許更新の前に認知機能検査と高齢者講習を受け、それに合格できないと免許の更新ができないそうです。私は高齢者ドライバーがみんなこのテストを受けて、合格した人だけが運転していることを初めて知りました。でもそれに合格しても、高齢者の事故や危険な運転が増えているのが現実です。調べてみると、その原因としてはハンドル操作やブレーキとアクセルの踏み間違いなどの操作不適が一番多いそうです。加齢に伴って判断力や認知力が低下し危険に気づけなかったり、体力の衰えや瞬発力も低下するために、とっさの対応が遅れたりすることが原因だそうです。

祖父に免許の返納はしないのか聞いてみると、車がなくなれば誰かを頼らなければならなくなるし、生活が不便になってしまうので返納に踏み切れないと言っていました。祖父の年齢を考えると、運転はとも心配です。でも祖父が言うように、車がなくなったら生活が不便になってしまうことも理解できます。

そんな時、近所のおじいさんがサポカーSという車に買いかえたことを教えてくれました。安全運転サポカーSと言って、衝突被害軽減ブレーキやペダル踏み間違い時加速抑制装置など、ドライバーの安全運転をサポートしてくれる車なのだそうです。祖父は費用を考えると購入は難しいようでしたが、車を買いかえなくても今乗っている車に後付けできる急発進抑制装置があることを聞き、車屋さんに相談に行ってみることにしました。

安全を考えたなら高齢者の免許返納は推進すべきだと思います。でも返納した方のその後サポカーも必要です。自治体によって色々な支援があるようですが、その地域の高齢者に合った長期的な支援が必要だと思います。

祖父の誕生日をきっかけに、高齢者の運転について考え、色々なことを知ることができました。祖父とは運転に少しでも危険や不安を感じたら、免許を返納する約束をしました。祖父が今後免許を手離す時が来たら、買い物や用足しなど私にできることは手伝ってあげたいと思います。そして私が成人して車の免許を取る時が来たら、祖父を大好きな温泉に連れて行ってあげたいです。

小学校4年生～6年生の部

* 作品は原文のまま掲載しています。

宮城県教育委員会教育長賞

家族の思いやり

涌谷町立月将館小学校 四年 棟形 咲耶

わたしは毎日、家族から交通安全について、いろいろなことを言われます。車に気をつけるんだよ。「七ん号が青になってもすぐにわたらないで左右かくにんしてわたるんだよ。」などと言われます。

四年生になつて、学校区の中なら一人で自転車に乗るようになってから、お父さんとお母さんの心配がますますふえたようです。もともとたくさん注意されるようになりまして。スピード出したらだめだよ。「ヘルメットはせつたいにかぶつてね。」友達ときょうそうしたらだめだよ。「なれた道でも何あるか分からないから油だんしたらだめだ。」だめだよ、だめばかりで、いやになるときもあります。分かつてるよ。「と思うときがあります。」

ある日わたしは、毎日同じこと言わなくても分かるよ。「とお母さんに言いました。するとお母さんは、お母さんも、じじ、ばばに交通安全について、よく注意されたよ。毎日言われたら心の中にその言葉が深くきざまれて、ずっとこのことっているんだよ。」と言いました。

そつだ、わたしは、自転車に乗って風がすずしいからスピードを出したくなるけど、車がこわいから、お母さんやお父さんの言葉を思い出し、あつ、だめだめと心の中で思つてます。道を歩いていても、毎日言われていることを思い出し、注意しています。

おかげで、わたしは、きけんな目にあつたことがありません。家族が心配して毎日かけてくれる言葉が、わたしの心にもきざまれていてきけんな目にあわないように助けてくれるのかなと、うれしくなりました。

わたしのことを心配して毎日声をかけてくれる家族の言葉を感じやの気持ちで聞こうと思ひます。

そして、心配してくれる人を心配させないように交通ルールを守つていきたいです。また、わく谷町の交通死ぼう事、ゼロ日数がこう新でできるようみんなが心にきざんで、交通ルールを守つてほしいです。

一般社団法人 宮城県交通安全協会会長賞

自転車で転んだ日

大和町立吉岡小学校 四年 山野 快青

ぼくは、サイクリングが好きです。自転車に乗って、自分の町の知らない場所をさがすのが好きだし、サイクリングをしていると、顔にふいてくる風も気持ちいいのでぼくはサイクリングが大好きです。

ある日、ぼくはいつも通りサイクリングを楽しんでいました。長い坂道を下つているとどんどん、スピードがあがつていくのが楽しくて、ぼくは調子に乗つてどんどんスピードをあげてしまいました。すると、小さいだんきにつまづきバランスをくずして、いきおいよく転んでしまいました。左うでがとでもいたくて、体の左側をぶつけたので左ほほや左かたからもたくさん血が出ました。近くにいた中学生の人たちに助けってもらいましたがぼくは、いたいのと悲しい気持ちで頭の中が真っ白でした。

どうにか家に帰つて、ぼくはしばらくベッドで横になりました。少し気持ちが落ちついてから、転んだときのことを、もう一回思い出して感じたことがありました。それは、頭も強く打つていたのに無事だったといつことです。転んだときに、強いしよげきがあつたけど、ぼくはちゃんとヘルメットをかぶつていたので、大事な頭は守れたのだと思ひました。あとからヘルメットを見てみたらすごいきざりがたくさん付いていて、もし、ヘルメットを付けていなかったらと思うと、死んでいたのかもしれないと思つてとてもこわかったです。ちなみに左うでではこつせつをしていました。

ぼくは、このケガであらためてヘルメットの大切さが分かり、自転車でかける時は必ずヘルメットを付けて安全運転を心がけたいなと思ひました。自転車は正しく乗れば、とても楽しい乗り物なのでこれからも、交通ルールを守つて、気をつけながら乗つていきたいです。そして、家族や友達にも、ヘルメットを付けることの大切さや事故・ケガのこわさを伝えていきたいです。

令和6年度宮城県交通安全ポスター作文コンクール入賞作品【作文の部】

小学校4年生～6年生の部

* 作品は原文のまま掲載しています。

宮城県PTA連合会長賞

シートベルトそれは、未来の希望も守る

大崎市立岩出山小学校 五年 氏家莉心

わたしの小学校では、毎年交通安全教室があります。バスの乗り方や、歩道で歩く際に気をつける事などを教わります。その中で、バスの乗り方の事について、必ずよく聞いています。理由は、わたしがバスで登校しているからです。毎回、先生達はシートベルトについて話します。そして、バスには、シートベルトをつけたときとつけていないときで、事故にあった時に命が助かる時にすごく差がありました。わたしは、それを見るたびに、シートベルトの安全性や先生達の話を思い出します。わたしはそこで、ただすこしバスで移動するだけだし、シートベルトはしなくても大丈夫。」と、思っている人がいる事をテレビで見ました。ただすこし、シートベルトをつけるだけで、もし事故にあった時に命が助かるのが多くなるのに、もったいないなと思いました。わたしは、命の大切さについて気づきました。それは、たった少しの行動で、希望、家族の笑顔も失ってしまう事です。

そこでやはり大事になってくるのが、交通安全ルールだと思いました。テレビでは毎日のように事故などのニュースがながれてきますが、例えば、車と車がせつしよくしました。その中の二人の中、一人は軽傷、一人は重傷だったとします。この中でもしも、軽いせつしよくでも重症だったら、わたしは、シートベルトはしていたかな。安全ルールを守っていたのかな。と思います。

わたしは、友達や家族とバスや車などの乗り方の交通安全のルールを確認したりして、事故にあったときに、すこしでも命が助かるように、学校で習う事もしっかり覚え、家族の笑顔、自分の未来の希望、夢、これは命があるから、いろんな希望、夢があるので、これからの、交通安全のルールや先生の話を聞いて、自分自身の命は自分で守って、いつもの楽しい日々を送っていきます。

作文の部 応募作品数

小学校1～3年生の部 17作品

小学校4～6年生の部 64作品

中学校の部 69作品

合計 150作品